

# 小里川ダム完成20周年イベントによる 地域活性化等の効果について

藤田 一希

中部地方整備局 庄内川河川事務所 小里川ダム管理支所 (〒509-7606 恵那市山岡町田代1565-21)

小里川ダムは2024年3月に完成20周年を迎え、それを機に、小里川ダムと水源地の魅力を地域と連携を図り発信し、全国各地から水源地に足を運ぶイベントなどを展開した。本稿はこの取り組みにより得られた地域活性化等への効果や、今後の地域活性化施策の展開について報告する。

キーワード 地域活性化, いやす里作りの会, 域学官連携, 小里川ダム

## 1. はじめに

岐阜県恵那市から瑞浪市を流れる、一級河川庄内川水系小里川の上流に位置する2004年に完成した小里川ダムは、多目的ダムであり、洪水調節、流水の正常な機能の維持及び発電を目的としている。ダムの位置を図-1に示す。



図-1 小里川ダム位置図

小里川ダムは1997年7月に「地域に開かれたダム」の指定を受け、「見て、聞いて、感じる、ふれあいといこいの里」をテーマに、ダム周辺の整備やダム管理開始以降に堤体の一般開放を行う等の計画がなされていた。

小里川ダム完成当初は、ダム水源地域である恵那市山岡町、瑞浪市陶町、ダム下流地域である瑞浪市稲津町の3地域から頭文字をとって結成された「い(稲津)や(山岡)す(陶)里作りの会」が中心となって、ダムと共働した夏祭りなどの様々な地域行事を行っていた。

しかし現在は、「いやす里作りの会」の活動は無く、それに変わるものとしては「いやす」の3地域が実行委員会として参加する、年に一度のダム湖周辺の野山を散策する「秋の小里川ダム湖周ウォーキング」のみとなっている。(図-2)

こうした現状の中、2023年度末に小里川ダムは完成20年の節目を迎えることとなった。これをきっかけに、ダムが地域を繋ぎ、「いやす里作りの会」との共働による地域活性化を実現させるべく、地域と連携したイベント等を展開した。

本稿は完成20周年を機に実施した、小里川ダムの三つの取り組みとその効果を報告するものである。



図-2 秋の小里川ダム湖周ウォーキング

## 2. ハタチの小里川ダムスタンプラリー

### (1) 概要

一つ目は、「ハタチの小里川ダムスタンプラリー」(図3)の開催である。前述した、「いやす」三地域のご協力

により、参加店舗を推奨いただき、2023年8月1日から2023年11月26日にかけてイベントを実施した。



図-3 スタンプラリーチラシ

スタンプラリーの内容としては、「いやす」三地域の対象店舗にて商品の購入を引き換えに、スタンプシールを配布する形とした。(図-4) また、全ての地域のスタンプシールを集めた方には小里川ダム管理支所から景品の配布や、抽選会を実施した。

これにより、参加者が「いやす」三地域の全地区を周遊する仕組みとした。



図-4 スタンプラリーマップ

## (2) 準備と実施

スタンプラリーの実施には、「いやす」三地域からの協力が必要となるため、2022年度から準備を開始し、地域へ企画説明を行った。結果、地域代表者の協力もあり、参加店舗数は合計20店舗まで拡大することに成功した。

## (3) 開催結果と地域の声

地域の協力を得て開催となった本イベントの結果は、景品発行実績が338セットであり、配布したスタンプシール枚数から140万円を超える地域への経済効果が得られたことが分かった。休日の管理支所への来場者数増加にも繋がり、治水事業のPRにも効果があったものと考え

ている。(図-5)

また、ダムをきっかけに他県から多くの方が「いやす」三地域へ来訪されたことから、参加店舗の皆様からは「沢山のダム好きが来てくれた。また協力するからぜひ頑張してほしい。」などの今後の地域活性化の展開に繋がる言葉を多くいただいた。本イベントにより、ダムには人を惹きつける魅力があり地域活性化の中心となり得るポテンシャルがあることを、「いやす」三地域の方々に感じていただけたことが最大の効果であったと考えている



図-5 小里川ダム管理支所1階広報資料室(ふれあい館) 年間来場者数の推移

## 3. 域学官連携事業

### (1) 概要

二つ目は、「域学官連携」である。この取り組みは瑞浪市と市内の大学、高等学校との連携協定事業が基礎となっている。

本協定は産業、文化、福祉、教育などの分野で地域と学校が相互に協力し、「若者や研究者の参加による地域の活性化」や「社会貢献を通じた優れた人材の育成」といったまちづくりを推進する内容である。

小里川ダムは本事業に参画し、地域「域」学校「学」小里川ダム「官」が共働して、地域活性化を図る事業「域学官連携」として瑞浪市内の各学校へ2022年度末に提案した。その結果、「学校法人廣池学園 麗澤瑞浪中学・高等学校」及び「学校法人安達学園 中京高等学校」と事業を進めることとなり、地域、学校、小里川ダムの三者で連携し、ダムを中心とした地域活性化計画の立案、実践に取り組むこととなった。

### (2) 各校の活動

麗澤瑞浪中学・高等学校は、「いやす」三地域のひとつである恵那市山岡町の地域特産品「細寒天」を用いた「ダム商品の開発」に取り組んだ。商品開発には細寒天PR店舗である「山岡駅かんてんかん」にご協力をいただいた。

結果、生徒から5つの商品案のプレゼンを受け、そのうち、2つの商品が2024年3月に2日間の限定販売として商品化した。(図-6, 7) 1日あたり80食分を販売数として



設定したが、両日とも昼頃には完売しており、販売実績は好調であったため、今後も限定販売商品として「山岡駅かんでんかん」のイベント時などに販売が行われることとなっている。

また、その他1つの商品について2024年度に通年販売商品化予定であり、管理支所隣接の「道の駅おばあちゃん市・山岡」にて販売することが決定している。（図-8）

本取り組みは、瑞浪市の麗澤瑞浪中学・高等学校が恵那市の「山岡駅かんでんかん」とともに商品開発を行うといった、市をまたぐ活動を実現し、「岐阜県寒天水産工業組合」から成果の発表を求められたことや、地元新聞社2紙に大きく取り上げられたこと等、反響は大きく、小里川ダムと地域が共働した取り組みを広く広報する効果が得られた。

麗澤瑞浪中学・高等学校の2023年度活動内容を図-9に示す。

2023年度麗澤瑞浪中学・高等学校 域学官連携活動スケジュール	
4/15	現地調査(特産品調査・全体方向性レク)
5/13	校内オリエンテーション
6/1～9/30	生徒による商品開発
10/14	生徒によるプレゼン
2/1～2/29	商品化予定作品の広報ポスター作成
3/10・3/17	山岡駅かんでんかんにて限定販売

図-9 2023年麗澤瑞浪中学・高等学校の域学官連携活動スケジュール



図-6 麗澤瑞浪高校の生徒と瑞浪市長（限定販売日の様子）



図-7 2023年3月に販売した2商品

（左商品名：〜ちょびつと欲張りな〜小里川水車ゼリー）  
（右商品名：水のチーズケーキwith小里川）



図-8 麗澤瑞浪中学・高等学校生徒発案  
2024年度販売予定商品（商品名：小里川じゃむじゃむ）

中京高等学校は「イベントの深化・発展」を目標として活動した。前述した「いやす」三地域が関わる唯一のイベントである、「秋の小里川ダム湖周ウォーキング」に向けた準備活動として、イベントを主催しダム周辺の山林の手入れなどを行っているボランティア団体とともに、木の伐採を行うなどの美化活動を実施した。（図-10）さらに、伐採後は学生を対象とした湖周ウォーキングを開催し、今までにはなかった地域ボランティア団体と学生の結びつきを生み出す効果が得られた。

また、既存イベントの発展を目指し、より多くの方に周知を行うため、PR動画の撮影を実施した。（図-11）撮影した動画はSNSへの投稿やイベント等で放映することで、多くの方へのダムイベントPR効果が得られた。（総視聴回数5537回、2024年8月1日時点）

その他、様々な小里川ダムの実施するイベントにも参画いただいたことで、イベントの深化に繋がったものと考えている。

中京高等学校の2023年度活動内容を図-12に示す。



図-10 学生による木の伐採の様子



図-11 ライトアップイベントPR動画



図-13 完成20周年ライトアップイベント

2023年度中京高等学校 域学官連携活動スケジュール	
5/22	小里川ダムの概要・歴史を学ぶ講話
6/21	小里川ダムのSNS活用方法検討
6/24	ダム堤体視察（広報動画作成）
8/9・8/18	ダム職員1日体験イベントの共働
9/2	山林の手入れ
9/19	地域防災を考える机上訓練
10/21	学生対象湖周ウォーキング
11/18・19・25・26	ハタチの小里川ダムスタンプラリー抽選会への協力活動
12/19	小里川ダムライトアップイベント（広報動画作成）

図-12 2023年中京高等学校の域学官連携  
活動スケジュール

#### 4. 小里川ダム完成20周年ライトアップイベント

三つ目は、「小里川ダム完成20周年ライトアップイベント」の実施である。（図-13）ダムの非常時照明設備の試験点灯及び訓練を兼ねて、毎年小里川ダムではライトアップイベントを実施している。2023年は12月19日から24日までの計6日間の開催とし、うち1日は夜間のダム堤体内特別開放を実施した。

ライトアップイベントでは、完成20周年を記念した特別仕様の記念カードの配布や、前述した中京高等学校の生徒によるPR動画の作成、また、休日（土曜日）での夜間堤体内開放を実施した。その結果、開催6日間でカードの配布枚数が前年度比約1.5倍（494枚）。ダム堤体内夜間特別開放日の堤体入場者数が前年度比約2倍（248名）と大幅に増加している。

#### 5. 令和6年度の取り組み

##### (1) 令和6年度管理開始20周年イベント

完成20周年イベントにて実施した取り組みは、前述したとおり一定の効果があつたが、地域活性化の実現にはそれを継続していく必要がある。そのため2024年度は管理開始20周年イベントとして、より地域とのつながりを重要視し、「いやす」三地域のイベントにダム管理者が足を運び、ブース出展を実施するイベントを展開している。「いやす」それぞれのイベントに小里川ダムが関与することで、ダムファンが地域イベントに訪れ、地域はダムの有する魅力を再認識することにより、ダムを活かした地域活性化活動に取り組む機運を更に向上させていくことを狙っている。

##### (2) 2024年度域学官連携

2023年度に域学官連携事業に取り組んだ2校に続き、新たな3校目の活動として岐阜県立瑞浪高等学校と2024年度から取り組みを開始した。対象校の追加が実現に至ったのは、地域から学校への働きかけがあつたからこそであり、2023年度の完成20周年の取り組みによる効果であると考えている。

瑞浪高等学校は「小里川ダムを活用し、水源地陶町の活性化を実現する」ことをテーマとし、1年次から3年次までの継続的な活動を実施する。1年次では、高校生から



地域、ダムへ向けて地域活性化案の提案を行い、2.3年次ではその実践を行う計画である。

試験的に2024年度にも学生からの提案を先行して実践予定であり、「小里川ダムレトロライトアップイベント」として具体化しつつある。このイベントの実現に向け、既に活動を開始しており、陶町の特産である「陶器」を使った灯籠を小里川ダムに設置し、ライトアップを実施することを目標に、地域、学校と共働の取り組みを実施中である。（図-14）本イベントが実現すれば、地域、学校、官が連携した唯一性の高いイベントとなる。また、継続発展させていくことで「いやす」三地域が取り組む大きなイベントとし、地域活性化へ繋がっていくことが期待できる。



図-14 学生と地域住民による灯籠作成の様子

2023年度から活動している前述した2校も活動を継続している。麗澤瑞浪中学・高等学校は2024年秋頃販売予定商品のパッケージを製作中であり、中京高等学校は管理開始20周年イベントのブースをダムと共働して運営した。（図-15）

3校それぞれが異なる活動を継続していくことで、様々な方面から地域活性化の可能性を狙い、イベントや、取り組みのさらなる発展を実現させていきたい。



図-15 中京高等学校小里川ダムブース運営の様子

## 5. おわりに

地域に開かれたダムとして指定されている小里川ダムは、竣工時には大規模な湖底フェスティバルが実施されるなど、周辺地域の地域活性化への期待が非常に高かった。また、当時は「いやす里作りの会」がダムと共働して夏祭り等のイベントを実施し、その一環として小里川ダム秋の湖周ウォーキングを実施してきたことなど、地域のつながりが強く、活気もあった。しかし、近年は地域の高齢化、人口減少が進み、更に、コロナ渦による追い打ち等で、ダムを中心とした活性化の取り組みが衰退してしまった。

ダム完成当時は活発であった「いやす里作りの会」の活動を再開させ、地域を活性化させるために前述のとおり小里川ダムは様々な活動に取り組んできた。

スタンプラリーや地域イベントへの参加によって、地域にはダムが持つ人を惹きつける魅力を再認識いただき、域学官連携による取り組みによりイベントを発展させ、地域とのつながりの輪を広げる取り組みを継続してきた。実際に完成20周年の取り組みが実を結び、今年度は前述したイベントへのブース出展や域学官連携の発展が実現できている。さらに今年の冬には学生、地域と共働したレトロライトアップイベントの実施や、来年以降には学生提案による地域活性化案の実践など、今後の展開にも繋げることができた。

これらの活動を通して、将来的には「いやす」三地域を繋げたイベントへの発展に結びつけ、いやす里作りの会の活動を、実行委員会形式にて再開し、「いやす」が自力で地域を活性化させていく未来を目指したい。

完成20周年の取り組みは、そんな未来をつくるための地域を繋げるきっかけになった効果があり、少しずつではあるが地域がダムと共働してイベントに取り組んでいただけるように変わってきている。この活動でつくった繋がりを今年度で終わらせず、地域や学校と連携しながらダムを中心とした地域活性化活動をこれからも継続していく必要がある。

完成20周年の取り組みはゴールではなくスタートだという認識で、これからもダムを中心とした地域を元気にする活動を実施していきたいと考えている。